

鳥坂寺跡整備検討委員会 会議録

第1回会議（2012年9月25日）

時間...14:00～16:00

場所...歴史資料館3階 研修室

1. 開議

2. 教育長あいさつ

3. 委員紹介・囑託状交付

委員

- : 塚口義信氏（堺女子短期大学名誉学長・名誉教授、日本古代史）
- : 大脇 潔氏（近畿大学教授、考古学）
- : 森 明彦氏（関西福祉科学大学教授、日本古代史）
- : 箱崎和久氏（奈良文化財研究所遺構研究室長、建築史）
- : 高橋知奈津氏（奈良文化財研究所遺構研究室研究員、庭園史）

4. 事務局紹介

事務局

- : 稲田邦敏（教育長）
- : 岡本彰司（生涯学習部長）
- : 宮本知幸（生涯学習部次長兼文化財課長）
- : 桑野一幸（文化財課参事兼課長補佐）
- : 山根 航（文化財課係員）
- : 井西貴子氏（大阪府教育委員会 文化財保護課 文化財企画グループ 副主査）
- : 宮崎重明氏（環研究所 代表取締役・風土環境部長）

5. 閉会

6. 委員長・副委員長選出

委員長

- : 大脇 潔氏

副委員長

- : 森 明彦氏

7. 委員長・副委員長あいさつ

大脇委員長：大変な重責を感じている。鳥坂寺跡は、古代寺院の中では第一級の資料である。全国の方々に来ていただけるような整備を進めていきたい。

森副委員長：大脇先生が委員長になられて、非常に心強い。微力ながらも、鳥坂寺跡の整備に向けて尽力していきたい。

8. 委員会設置要綱説明

9. 開議（…委員からの意見・質疑、…事務局の回答）

鳥坂寺跡の概要と史跡指定の経緯について

（事務局から説明）

鳥坂寺跡保存活用基本構想について

（事務局から説明）

しっかりした構想ができており、感心している。基本方針の「復元を含めた具体的な展示」とあるが、市民の方がイメージしている展示とはどのようなものか、基本構想策定委員会の委員長をされていた森副委員長にお聞きしたい。

森副委員長：

委員として参加された市民の方々は、多様な意見を持っていた。ただ基本的には、文化財を守りたい、後世に残していきたいという意識が非常に強い。したがって鳥坂寺跡の基壇や遺構等を壊してまで、復元・展示したいという意見は皆無だった。

遺跡を保護するというのが大前提だが、基本方針の「多様な利用者に向けた整備」にあるように、歴史愛好家だけでなく、全国の人々に利用していただくという視点が非常に重要である。また多くの小学生が資料館に来ていると聞いているが、具体的にはどのくらいなのか。

秋の大和川についての企画展では、毎回約 8000 人の小学生が来ている。一般も含めた年間の来館者は約 20000 人である。

鳥坂寺跡の整備によって、多数の小学生が遠足等で訪れることも大いに考えられるので、整備においては、まず小学生の安全性の確保を十分に配慮しなければならない。さらに展示の説明板などでは、振り仮名を付けるなどわかりやすい、楽しい展示にするようお願いしたい。

柏原市市民歴史クラブについて、詳しく教えて欲しい。

基本的には自立した団体で、文化財課としては資料提供など行って手助けをしているに過ぎない。会員数については、約 20 人と聞いている。

史跡の管理等には、ボランティアの存在は欠かせない。将来的に、市民歴史クラブのような存在が、その中核を担う可能性がある。

鳥坂寺跡に隣接しているサンヒル柏原の利用状況はどのようなものか。

夏場のプール利用者が圧倒的に多いが、宿泊施設、テニスコート等もあるので、年間を通して利用されている。

基本方針の「周辺整備とネットワークの構築」とあるが、鳥坂寺跡以外の遺跡・史跡の状況はどうなっているのか。

その他の史跡で、現在、公園等に整備が進んでいるものはない。史跡の田辺廃寺にしても、事前の連絡が必要で、常時見学できる状況にない。また河内六寺も、智識寺以外は礎石などが見学できる状況ではない。

事情に詳しい歴史愛好家にとっては、史跡巡りはできるが、現状では一般の方が巡るのはなかなか難しいという認識でよいか。

本格的な整備は別にしても、新たにわかりやすい説明板を建てるといったことを、鳥坂寺跡の整備と関連させて、できるのではないかと考えている。

柏原市では北側の河内六寺ゾーン、南側の河内国分寺ゾーンなど設定できる。専門家でも、なかなか説明板だけでは寺域の把握は難しい。

鳥坂寺跡の整備を契機に、説明板といった周辺の整備を含めて、われわれが市長に提言していく必要がある。

まずは駅から駅までのルートを確認する必要がある。要所に説明板を設置し、ルートの最後に鳥坂寺跡、資料館を置き、そこに来れば、柏原市の歴史の全体像が掴めるという位置づけができる。

近鉄との話し合いはどうなっているのか。

史跡指定範囲に係る境界確定などの話し合いがあるが、それ以外に具体的には進んでいない。昭和4年の線路敷設についても、何らかの資料がないかと問い合わせているが、未だ無回答である。

塔跡には神社があるが、整備するにあたって同意は得られているのか。

神社地で、何らかの整備を行うのはかなり難しい。塔跡のある地点は、参拝客の通り道であり、また神事も行われている状況なので、何らかの視覚的な施設等を建てるのは困難である。

平成22年度の塔跡の調査において、神事等によって雨落溝の側石が移動している、あるいは抜けている状況が確認された。遺構の保存の観点からいうと、塔跡の範囲を明示する必要があるのではないか。将来的に、地元の理解を得て、現在の拝殿や狛犬

の移動を視野に入れ、盛土等をして遺構を保護する必要性を感じる。また、拝殿東側の小さな社に、塔の礎石が使われているが、それも将来的に塔跡に戻して欲しいと思う。心礎も、レプリカを地上に展示するというのも、整備の方針として盛り込んで良いのではないか。

整備基本計画報告書の全体構成案について

(事務局から説明)

今年度のスケジュールを確認したい。

今年度中に、案で示したガイドラインとしての一次的な報告書を作成する。それに基づいて、さらに具体的な審議を進めていただいて、2～3年の間に最終的な基本計画報告書を作成する予定である。案で示した保存管理計画の中で、欠けている項目等あればご意見をいただきたい。

基本構想に示されている「拡大エリア」について、講堂北側にある段差は、寺域造成時に丘陵をカットした際に形成されている。拡大エリアを将来的に購入することであっても、駐車場にするために、この段差を平坦にするといったことはすべきではない。旧地形を残しながら整備するという方針でお願いしたい。

拡大エリアでは発掘調査はされているのか。

古代寺院に直接関係する遺構はない。ただ北側の拡大エリアでは、鳥坂寺と関連した集落の柱穴が試掘調査で見つかっている。

線路東側の史跡指定範囲である「中核エリア」が狭い状況を見ると、拡大エリアは絶対必要であるという方針で進めていただきたい。

現地に施設を建て、出土遺物を展示するという方針はあるのか。

現時点では未定。拡大エリアに展示施設をつくり、そこに展示という方法もありうるし、サンヒル柏原のロビー等に展示という方法もある。

公有化計画について具体的にお聞きしたい。

現段階では、中核エリアのみの公有化を進めたいと考えている。購入年度はその方法にもよるが、最短で平成26年度からを予定している。購入には2～3ヵ年ほど必要とみられるため、実際の整備に取り掛かるのは、早くとも平成28年度以降になるとみている。

基本構想の計画案の中に、「魅力ゾーン」とあるがどのようなイメージがあるのか。一般利用者に向けたエリアという意味合いで、現時点で具体的なイメージはない。

線路に分断されたまま整備するというのは、鳥坂寺を理解する上で理想的ではない。何らかの方法で線路を覆い、中核エリアと神社エリアを結ぶのは、現実的に非常に難しいと思うが、鳥坂寺を一体に捉えるのは重要である。

整備において、鳥坂寺跡を一体的に見てもらえるような手法をとらなければならないと考えている。

サンヒル柏原のために駐車場をつくったとみられないよう、拡大エリアに駐車場をつくるのは慎重にならなければならない。資料館等の利用客が、どのような手段で来ているのか精査すべき。JR 高井田駅や近鉄河内国分駅から、さほどの距離ではないので、歩いて来るのが大半ならば、大きな駐車場をつくるべきではない。ただ、小学校や中学校などの遠足で、バスで来られるようにするという方針なら必要性が生じる。こういった公園を目指すのかという点で、駐車場は大きな問題となる。

資料館近隣に大型バスが駐車できない点から、史跡周辺の道路整備もすべきという意見も基本構想策定委員会で挙がっている。現に、サンヒル柏原のプール開場時に駐車場として使用されている部分は、整備後も引き続き駐車場としておく必要性があるとも考えられる。

その他

整備するにあたって、鳥坂寺の金堂が、単なる盛土をして芝生を貼るだけではもったいない。予算的な問題もあるだろうが、基壇を型取りしたものなどを展示できればと考えている。

金堂基壇の階段などを軽いもので製作して、それらを組み立てるといったイベントを企画しても面白いのではないか。

10. 次回の開催予定

事務局：次回は11月13日（火曜日）、14時から16時、場所は本日と同様、歴史資料館3階研修室で行う。次々回は1月22日（火曜日）を予定している。

11. 閉議